

2016年度

美山木匠塾

Miyama mokushojuku

活動報告書

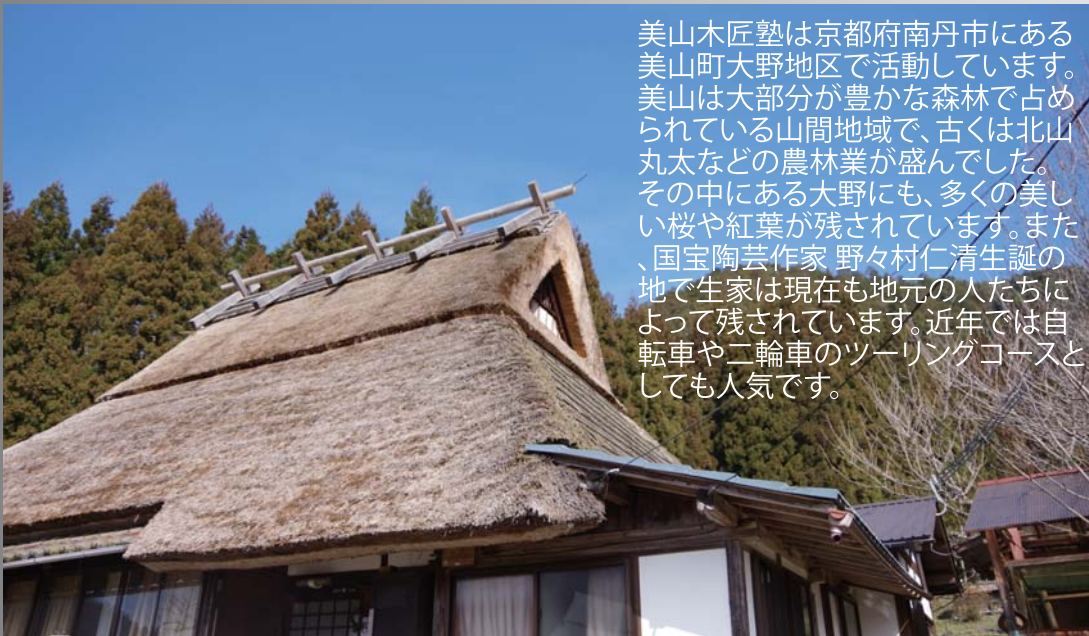
Activity report

伝えたい、自然と人情のまち。

私たちの“大好きな場所”のこと。



美山町 大野について



美山木匠塾は京都府南丹市にある美山町大野地区で活動しています。美山は大部分が豊かな森林で占められている山間地域で、古くは北山丸太などの農林業が盛んでした。その中にある大野にも、多くの美しい桜や紅葉が残されています。また、国宝陶芸作家 野々村仁清生誕の地で生家は現在も地元の人たちによって残されています。近年では自転車や二輪車のツーリングコースとしても人気です。



contents

- 01 美山町・大野地区について
- 03 活動状況 京都府立大学
- 07 活動状況 摂南大学
- 11 大野区民体育大会・感謝祭
- 13 春季ホームステイ・合宿
- 15 感想文 京都府立大学
- 18 感想文 摂南大学
- 21 2016年度 活動のまとめ

木を組む、育む くむくむ

製作物の決定まで

「くむくむ」の計画が始まったのは、2016年3月の合宿で行われた第一回目の現地ヒアリングである。現地の方と意見交換をするなかで、美山・大野地区内のちびっこ広場に設置するための「子どもたちが遊べる遊具がほしい」という要望があった。学生がヒアリングを行うまでに提案したものは、大人を対象とした提案だったため、現地の方から意見を聞くことの重要性を痛感した。ちびっこ広場には、これといった遊具がなく、子供たちが遊具を目当てに集まれば地域の輪も広がる。このアイデアをもとに、学生たちでミーティングを繰り返し開き、パーツを自由に組み合わせてできる三角形のジャングルジムの案が生まれた。メインにジャングルジムの機能を持ちつつ、組み合わせ次第では、大人も使える机や椅子として利用できる自由度の高い提案だ。そして、同年7月に原寸大のモックアップを用いて、現地でプレゼンテーションを行った。その中で、安全性や耐久性についても話し、木製ジャングルジム「くむくむ」をより形のあるものにしていった。



熱心にミーティングをする学生たち

道具講習会の様子

制作した模型



顧問の先生を交えて
模型製作に励む

現地でのプレゼンテーション



- 01 仕分け
- 02 けがき
- 03 切断
- 04 塗装
- 05 組立



製作の流れ

2016年6月、「くむくむ」の製作に先駆け、道具講習会を開いた。建築家であり、家具もデザインされる狩野さんを招き、スライドソーやドライバーの使い方などを指導していただき、安全面での意識を強化した。そして9月、異なるパーツごとに3チームに分かれ、くむくむの製作が行われた。まずは部材毎に木材を仕分け、製作図通りに切断するときの目安となる寸法線を引き、部材を切断。その後、出来上がった部材は腐朽を防ぐための塗装を施し、ボルトとナットで組み立てて、「くむくむ」が出来上がった。これら全ての工程をすべて学生だけで行い、協力して作業することができた。製作作業に初めて参加する1年生たちも、初めは慣れない様子だったが、次第に道具の使い方が上達し、ものづくりの楽しさを実感しているようであった。何度もミーティングを重ね、製作物の構想から一つのモノを製作する過程を経験することで、より一層達成感を感じ、子どもたちの元気に遊ぶ姿が見られることを心待ちにしていた。



05



「くむくむ」に登って遊ぶ子どもたち 01



現地で組み立て作業を行う学生 02



現地の方にお披露目する様子 03

大野区民体育大会

地区の体育大会にて、大野地区の方々に初めて「くむくむ」をお披露目した。体育大会の傍らで子どもたちが元気に「くむくむ」で遊ぶ様子が見られ、子どもを見守る親御さんをはじめ、この「くむくむ」をきっかけに多くの交流を育むことができた。実際に製作したものが、地域の交流に貢献できていることを実感できる有意義な時間となった。



「くむくむ」のコンセプト

日本人は様々な形で木材を切り出し、それらを組み合わせて利用してきた。木に触れる機会が減り、木育が見直されるいま、この木製ジャングルジム「くむくむ」は、そのひとつの解答になると考える。「くむくむ」は1つ1つが異なる面をもつH型パーツからなっている。パーツをさまざまな組み合わせで「くむ」ことで生まれる隙間をくぐったり、覗き込んだり、また足を引っ掛けて登ったり。子供たちは多様な遊び方をこの「くむくむ」で見つけたし、手軽に木に触れあうことができる。

子どもたちは「くむくむ」に興味津々

「くむくむ」の活用と成果



木漏れ日のなかで遊ぶ 04



「くむくむ」でくつろぐ 05

Open MUJI

2016年9月に東京の有楽町で行われた全国から木材製品が集まるイベント「Open Muji 有楽町」に我々も「くむくむ」で出展した。美山町・大野地区での活用にとどまらず、このような大規模なイベントに美山木匠塾として参加することは、美山の木材を都市部へアピールでき、地域の発展に貢献する機会となる。美山町の子どもたちと同様、「くむくむ」に登ったり、くぐったりして元気に遊ぶ様子が見られた。また、この都市部の子どもたちが都市の真ん中で裸足になり、木とふれあいながら遊んでいる姿は新鮮だった。



販売用テーブルとしての「くむくむ」 06

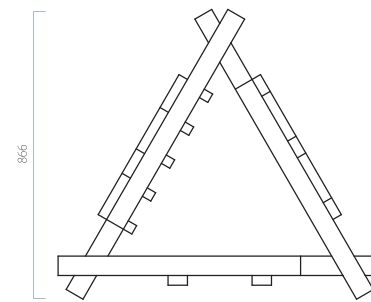
平成28年度 第3回

「木を活かす学生課題コンペティション」

2017年3月には、「木を活かす学生課題コンペティション」に「くむくむ」が林野庁官賞を受賞した。昨年度においても、「棧」がものづくり部門賞を受賞しており、2年連続の受賞となった。東京・新木場にある木材会館で開かれた授賞式では、「くむくむ」と美山木匠塾の取り組みについて紹介し、プレゼンテーションの難しさを知る良い機会となった。また、他の作品の発表から様々なアイデアやプレゼンテーションの方法を学んだ。懇親会では、異なる大学の学生、先生や林野庁の方と意見交換し、貴重な話を耳にすることができた。

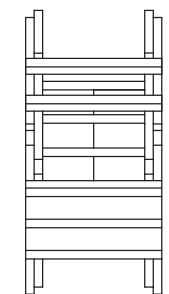


授賞式にて記念撮影 07



「くむくむ」1ユニット

立面図(正面)



立面図(側面)

H型パーツ

H型の異なるパーツの面は、4種類ある。「くむくむ」のメインパーツとなる2本の板を渡して構成されたシンプルなベースパーツ。見え隠れる面ができると同時に昇り降りする足場となる格子パーツ。グリーンに塗装され、アクセントを加えるアーチパーツ。また、机に転用できるように全面板張りした机パーツである。これらは、「くむくむ」の組み合わせ方を豊かにし、発想次第では新たなパーツを生み出すことも今後期待される。

制作物「のぼりたい」

大野地区運動会及び制作発表



昨年度3月から、今年度の制作に向け現地ヒアリングを行い、そこから何を制作するかを話し合い決まった案を現地でプレゼンしたのちに制作へと移っていった。
今年度摂南大学で制作したものは、昨年度の躯体を活かしながら日本の伝統工芸や文化に触れ、かつ子供の遊び場を提供できる遊具、「のぼりたい」。



大野地区で実際に制作したものを発表する機会を与えていただいた。この日は初めて子供たちにお披露目だったので、使ってもらえるか、楽しんでもらえるかとても不安ではあったが、こうして子供たちが遊ぶ姿を見られたので、学生一同とてもほっとしたとともに、モノづくりの楽しさを再確認。



制作発表だけではなく、大野地区の方々に混ざって運動会にも参加させてもらった。小さな集落ならではの、住人の絆や温かさを感じられるとてもいい機会となった。

大野地区ホームステイ合宿



3日間の合宿で各人が地域の方々の家にホームステイし、大野地区のことについてヒアリングするとともに、地域の方々との交流を深めること、そして最終的には学生たちで集めた情報を共有しリーフレットの作成を行った。



コンペへの取り組み



今年度は、「木材を使った木の課題コンペ」と「木を活かす学生課題コンペ」のふたつに取り組んだ。求められていることが違うそれぞれのコンペでは、コンペの趣旨がどういったものなのかを汲み取り、それをシートへと反映させることはとても難しく、さらに表現力を求められるので、学生たちで話し合い試行錯誤しながら完成させていくのはとても難しいと感じたし、もっと勉強が必要だと痛感した。





美山町大野区民 体育大会・感謝祭

2016年10月11日 公民館前のグラウンドにて

京都府立大学の学生が制作した木製ジャングルジム「くむくむ」と、摂南大学の学生が制作した木製すべり台「のぼりたい すべりたい」のお披露目を兼ねて、大野地区で毎年開催される体育大会に参加した。この体育大会は、地域の子どもからお年寄りの方まで参加し、愛されてきた催しである。製作物のコンセプト、制作過程、用途について発表するだけでなく、リレーなどの競技にも

参加し、大野地区の方々と交流するきっかけがもてた。体育大会のあとは、感謝祭で地域の方々より深く交流しながら今後の展望について話し合うことができた。子どもたちは見慣れない木製の遊具に興味深々。遊具に登ったり、くぐったり、すべったりと元気に遊ぶ子どもたちの姿、それを見守る地域の方の姿を目にすることができ、木製遊具を製作したやりがい大いに実感した。



2017.03.03 ホームステイ

里親さんと過ごし
大野地区の魅力をたくさん知れた

2017.03.04 合宿

前日までのホームステイで里親さんから聞いた情報をまとめ
リーフレットを作るため大野公民館に一日泊した

入村式・開講式



美山の景色



↑里親さんとの初対面

美山の魅力をインタビュー



↑美山の景色の良いところに案内してもらいました

ホームステイ先の家には
かやぶき屋根の家もありました→

かやぶきの家



料理の手伝いをしている



↑大野地区について様々なことを 教えてもらいました

おばあちゃんに料理を覚えてもらいながら作りました→

農作業の手伝いをしている



←里親さんたちの畑仕事を手伝いました
いろんな野菜を収穫しました

美山の元気な子供たちと
遊びました↓

子供たちとの交流



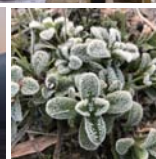
4班に分かれて情報をまとめた



自分たちでご飯を作った
やたい棧を活用!!



朝霧や
星を
見に
行った



2017.03.05 リーフレット報告会



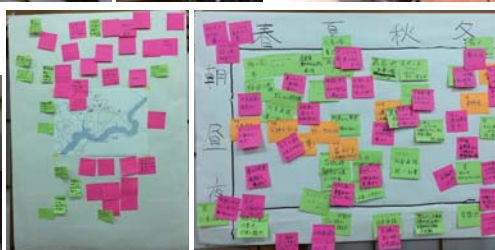
京都府立大と
摂南大の2校
の大学紹介
プレゼンをした



集めた情報をより
具体的なリーフレットに
していく...



地域の方々に合宿の
成果を発表した



地域の方々に
たこ焼きを振舞った



帰るのが名残惜しく、自分の祖父母のような存在になりました



この1年を振り返って

鍵井大貴 Daiki Kagii

生命環境学部
環境デザイン学科
3 回生

新たな人とのつながりを活動に活かす。

一年間、お疲れ様でした。今年度は昨年度と比べて、人数も活動規模も非常に大きなものとなり、木匠塾としてとても成長した一年だったと思う。それは、Open Muji 有楽町や講習会、大野区民体育大会、ホームステイなど、新たに多くの人と知り合い、支えてもらったおかげでの成長だと感じる。来年度も新たな人との繋がりを活動に活かしていければと思う。ありがとうございました。

平松優生 Yuki Hiramatsu

生命環境学部
環境デザイン学科
3 回生

使われることで気づくデザインの奥深さ。

今年度は、広い範囲でアクションを起こし、深みのある豊かな活動ができたのではないかと。2016 年夏、Open Muji 有楽町の「日本の木でできた屋台」部門に、制作した屋台を設置する貴重な機会を頂いた際は、実際に使ってもらうことによって気づかされるデザインの難しさと奥深さを学んだ。また、デザインから制作まで一貫して取り組んだ傘立ては、既存のイメージを良い意味で壊したデザインで、モノづくりの面白さを改めて実感した。

淡路谷直季 Naoki Awajitani

生命環境学部
環境デザイン学科
3 回生

さまざまな方に支えられている木匠塾。

今年度は、昨年度よりも美山木匠塾が大きく成長した 1 年だったと思う。1 回生や摂南大のメンバーが加わり、とてもパワフルに活動することができた。制作活動の他にも Open Muji 有楽町や、大野区民体育大会に参加するなど密度の濃い 1 年となった。さまざまな方に支えられて美山木匠塾の活動ができたことを嬉しく思う。協力してくれた大野地区の方たちや、スギダラの皆さん、先生方、そしてメンバーなど多くの人達にとても感謝している。本当にありがとうございました。

谷口悠貴 Yūki Taniguchi

生命環境学部
環境デザイン学科
3 回生

笑顔が印象的な1年だった。

皆さん、お疲れ様でした。今年度は、笑顔が印象的な 1 年だったかと思う。「くむくむ」で遊ぶ”こども心”が、ホームステイする”若い心”が笑い合う。ものづくりを通して、私たち美山木匠塾の活動の意味が色濃く表れた 1 年だった。来年度も良いところをより伸ばし、悪かった点を反省して、さらなる飛躍があればと思う。今年度もありがとうございました。

向井亜美 Ami Mukai

生命環境学部
環境デザイン学科
3 回生

木匠塾にとって、大きな変化があった年。

一年間お疲れ様でした。今年度はメンバーも増え、活動の幅も広がり木匠塾にとって大きな変化があった年だと思う。今年度、印象に残っているのは製作だ。毎年行っているが、やはり自分たちで考えたものを実際に形にしていけるのはとても楽しいものだった。普段の大学生活では経験できない事をやらせていただいた。ありがとうございました。

井上あい Ai Inoue

生命環境学部
環境デザイン学科
2 回生

地域の方への感謝が重要と感じた。

二回生となり、中心になって製作物に取り組みこむことで、アイデアを検討しながら課題を解決し設計していくことの難しさを学んだ。同時に、完成したものを現地の方や子どもたちに実際に触れてもらい、喜んでるのを見ると、とても嬉しかった。現地で行われた大野区民体育大会や合宿でのホームステイなどの参加を通して、製作物のその後の活用や発展、また協力してくださった地域の方々への感謝が重要だと感じる一年になった。これからも美山木匠塾として、現地やイベントなど人との出会いも大切にして活動していきたい。

仲田早穂 Saho Nakata

生命環境学部
環境デザイン学科
2 回生

大野地区がより素敵になるものを。

何も無かった所から皆でくむくむを設計、製作し、それがコンペで賞をとって人から評価されるまでになった。ここまで経験出来るのは木匠塾だからこそであり、貴重な経験であった。初めは 2 回生で活動を進めていくことに難しさを感じたが先生、先輩、後輩からの支えで 1 年間を終えることが出来た。また、今年度は地域の人と関わる機会が増えたように思う。これを活かして来年度は美山町・大野地区がより素敵になるようなもの作りに携わりたい。

林咲予子 Sayoko Hayashi

生命環境学部
環境デザイン学科
2 回生

指示を待つ1回生の頃とは違う責任。

2 回生になって自分たちが主体となり、製作を進めていくことの難しさを知ることができた。指示を待っていた 1 回生の頃とは違い、自ら行動を起こすことは責任もあり、いい経験ができた。大野地区を訪れた際には、実際に楽しく遊んでくれている姿を見ることができた。今後、誰かのために何かを作る時、この経験を活かせられると思う。地域の方々と交流が益々増え、木匠塾としての活動もさらに広げていけると思った。

田村匠 Takumi Tamura

生命環境学部
環境デザイン学科
2 回生

木匠塾で期待以上の経験ができた。

私は今年度から木匠塾に参加したが、とても内容の濃い 1 年だったと思う。製作物では大野地区の方と意見を交わしたり、学生間で何度も話し合ったりした。さらにはコンペの授賞式、リーフレット作りのための合宿やその他のイベントにも参加し、今まで以上に多くの方と関わることで、美山木匠塾の活動を知ってもらえたと思う。木匠塾に入る前に期待していたこと以上のことを経験できたと感じる。来年度も今年度の活動を継続しつつも、さらに飛躍した美山木匠塾にしていきたい。

中村優実 Yumi Nakamura

生命環境学部
環境デザイン学科
2 回生

主体となり、制作する難しさとやりがい。

2 回生になって制作活動の主体として進めていくことになり、ものをいちから作ることの難しさ、大変さ、またやりがいを感じた。昨年度は、先輩方の用意した図面や材料表を元に制作するだけだったので、初めからそれらを私たちの回生のみで作りに上げていくのは大変だった。しかし、それらの作業を自分たちで進めることで制作物への愛着もわき、コンペ用のシートを作る際もスムーズに流れを整理することができた。来年度は、制作物によって更に外と交流する活動に携われたらよいと思う。

松本哲弥 Tetsuya Matsumoto

生命環境学部
環境デザイン学科
2 回生

完成したときの感動と達成感を得た。

美山の木を活かしたこの美山木匠塾の活動に興味を持ち、2 回生から取り組みに加わった。大学の実習では、計画、設計を経て模型でしか形にできないところを、この木匠塾では、全てを学生だけで考え、最終的には原寸大のものに起こす。それゆえ、完成した時の感動は大きく、これまで以上の達成感を得た。また、この報告書を含め、いろいろな場面でフライヤーやシートなどの二次元媒体を作成・編集する機会があり、貴重な経験となった。

梶原薫

kaoru Kajiwara

生命環境学部
環境デザイン学科
1 回生

言いようのない喜びを味わえた。

何を作るか決めるところから始め、形、使い道、作り方まですべていちから、学生が集い、何度も話し合いを重ねてものづくりが出来たのは私にとって貴重な体験だった。自分たちが作ったもので子供たちが和気あいあいと遊んでいるのを見た時は、言いようのない喜びを味わうことが出来た。この喜びを忘れることなく、学んだことを今後も活かしてゆきたい。

手島悠登

Yūto Teshima

生命環境学部
環境デザイン学科
1 回生

製作したものが喜ばれる嬉しさ。

私は7月頃に「くむくむ」のデザインを考える段階から参加した。大野区民体育大会で自分が製作に携わったものが、子供達に喜ばれていてとても嬉しく感じた。2016 年度を振り返り、普段の学生生活では体験できないことを経験し、得るものは大変多かった。ホームステイを踏まえて大野地区への関わり、また製材など新たな取り組みが多くなっていく。2 回生からはメインとなって活動していくことになる。試行錯誤を繰り返しながら、木匠塾にとってまた自分にとって有意義な年にしていきたい。

宮奥森伍

Shingo Miyaoku

生命環境学部
環境デザイン学科
1 回生

「まちづくり」を学ぶ上で大切な経験。

私は美山木匠塾に入ったことで、普通の学生生活では体験できない、たくさんの貴重な経験をする事ができた。特に、リーフレット作りの中で大野地区の人々との親交を深め、大野地区の活性化に協力するという活動は、「まちづくり」を学ぶ上で非常に大切な経験だと思う。自分は今後1年間、幹事として木匠塾を引っ張っていき、これからも木匠塾をより良いものにしていきたいと思う。

白石晃

Hikaru Shiraishi

生命環境学部
環境デザイン学科
1 回生

デザインに必要な考え方が身についた。

僕はこの一年、木匠塾として活動に取り組む中で多くのことを学んだ。設計から施工まで全てを学生の手で行うのでモノが出来上がる仕組みを学ぶことができた。木材の扱い方や工具の使い方などの技術的な面だけでなく、制作した作品が実際に使われ、地域の人々の役に立つために「なぜつくるのか」というデザインに必要な考え方を身につけることができた。来年度は更に「デザイン」できるようにみんなと協力して頑張っていきたい。

長岡真希

Maki Nagaoka

生命環境学部
環境デザイン学科
1 回生

案を具現化する楽しさとやりがい。

製作物の発案から製作までの一連の工程を行うことができたことは貴重な経験であった。使い手の思いや地域の特徴を元に案を具現化していくことは楽しく、やりがいがあった。知識量や技術面の乏しさから戸惑う事もあったが、木匠塾の活動を通して学ぶことは多く、製作の段階まで関わることができて良かった。今回学んだことを今後の活動で活かしたい。

松原斎樹 先生

Naoki Matsubara

生命環境学部
教授

今年は、「くむくむ」の林野庁長官賞受賞という輝かしい成果がありましたが、目立つ事だけに目を奪われるのではなく、地道な日常活動の積み重ねの成果であることに自信を持つと同時に、反省点にも目を向けて下さい。大野区のみならず、摂南大・授賞式で出会った他大学の友人との交流を活かして、今後も人と人のつながりの中で学ぶ姿勢を貫いてほしいと思います。個人的には、活動の中で学生の成長を間近に見られた楽しい一年でした。

摂南大学 木匠塾メンバー感想

美山木匠塾の活動はかけがえのない経験になった。ヒアリングから、計画・実際に制作し、最後の受け渡しという一連の流れを初めて体験した。自分たちでは計画できたつもりでも実際に制作して分かったことや、完成した制作物を受け渡し・実際に使ってもらえる喜びなど、大学の授業だけでは学べないことを身をもって学ぶことができた。この経験はきっと今後の自分に役立つと思う。

また、この活動は「協力してくれる仲間」の大切さや、「活動を支えてくれる人たち」の存在を大きく感じる事ができた。大変だと思ふときもあったが、この活動を続けてよかったと感じている。頼りない僕が学年幹事を続けることができたのは、ひとえに皆さんのおかげだと思う。ありがとうございました。建築学科2回 学年幹事 須山慎也

昨年度、何もできなかった1回生の私たちは今年度、右も左も分からないなりに精一杯のことをやれたと思う。その陰には、先輩や先生の協力があったことだったと思う。

制作物「のぼりたい」を作ったことで、ものづくりにはただ作りたいという気持ちだけでなく、作り方、作りやすさなど、いろんな要素が含まれてくることも気づかされた。

他にも、コンペに微力ながら参加したりと、木匠塾での活動は私にとっても成長できる場であった。

建築学科2回 制作幹事 北野大祐

今年度の活動は、普段の授業では経験できないような、実際にものを作るという作業を経験することができ、またそのために必要な図面、模型を細かく討論、チェックしながらの作成する作業は、大変なものであると同時にとても貴重な経験であった。

また地域の運動会に参加し、美山の地域の人と交流したり、自分たちが作ったものが実際に使われているところを見たことは何物にも代えがたい楽しさと感動が得られた。この木匠塾の活動は建築の技術や知識はもちろん、学生として、人としてもレベルアップできる場であった気がする。

建築学科2回 制作幹事 中野雄介

美山木匠塾は学校の授業ではできないような経験をたくさん体験することができた。

私たちはただ単にモノを作るだけでなく美山の方々からお話を聞いて何が必要か考え計画し、提案から制作まですべてを体験することができました。こんなに良い経験をする事ができたのは先生や美山の方々からの支えがあってからこそだと思います。

私はこの経験を生かし、頑張っていきたいと思います。

建築学科2回 制作幹事 山中圭吾

何もできなかった1回生の頃に比べ、今ではできることが増えました。普段の授業で身につけたことよりも、木匠塾に入ったからこそ身につけたものが多いです。イラストレーターなどのソフトを扱えるようになったこと。設計に取りかかるまでに調査やアイデア出しを繰り返し、設計をする。そして制作すること。この制作という自分たちで考えたものを形に残すという体験を学生の間で経験できたことが一番の収穫でした。

建築学科2回 制作幹事 松本大地

一回生の時から木匠塾に参加しているが、今年は率先して活動できた。美山のちびっこ広場の遊具の制作から始まり、自分たちが主となって、すべての制作を終えられた。冬期合宿では、美山大野地区の地域の方々とより深い交流ができ、来年からの制作に役立てたい。美山木匠塾に入ること、普通の大学生ではできない経験ができ、よりよい学生生活を送れた。

建築学科2回 リーフレット制作幹事 中野碧

春から美山木匠塾に参加し活動してきたが、そのすべてが自分にとって身になる充実した活動であった。実際に制作物を企画・検討、討論を重ねて図面を書き、完成・受け渡しまでの一連の作業をほとんど学生だけの力でやり遂げる。普段、大学で製図台に向き合っているだけでは経験できないようなことを体験できたことは、この先につなげていきたいと思う。1年生として貢献できたことは少なかったように感じるが、新学年幹事として迎える来年度はより有意義な活動をしていきたいと思う。

建築学科1回 1回学年幹事 廣門晴人

去年の夏頃から木匠塾に参加し、最初は先輩達のテキパキとした作業ぶりについて行けるか不安だったけど、何も知らない僕たち1回生にも先輩方は丁寧に教えてくださって感激しました。制作活動に入る際や冬期合宿では、自分がいかに無知で小さいものだというのを改めて考えさせられました。けれども、そういうきっかけがなければ僕はずっと成長できないまま卒業していくんだと思います。そう思うと、木匠塾での経験は本当に将来の糧として大きいものだと思います。

建築学科1回 長谷川駿

冬から美山木匠塾に入り制作物は僕自身としてまだしていないが、活動場所である大野地区でのホームステイは個人的にも美山木匠塾としても良い経験になった。

実際に現地で感じた僕らの様々な感覚がただのリーフレット作成には止まらない可能性を感じた。

現地の方々の意見やグループワークからヒトに対する意見の大切さを味わった。ものづくりにもこれを生かすことで変化をもたらせるものを思考してこれからの木匠塾の活動に取り組みたい。

建築学科1回 丸與一輝

僕が美山木匠塾に入ったのは11月ぐらいで、現地には3月の合宿で初めて行きました。行ったのは美山町の大野地区で、合宿に行くまでは先輩の話でしか現地のことを聞いてなかったのですが、実際に行くとすごく感動しました。道を歩いているとすれ違う人みんなが挨拶してくれたり、話しかけてもみんな笑顔で答えてくれて暖かさを感じました。本当に良い合宿になりました。

これからは新しい制作物やコンペなど僕たちが中心となってやっていくことになるので頑張りたいです。

建築学科1回 林大智

今年度、私は初めて木匠塾の活動に参加した。最初は図面も工具のことも何も知らない普通科高校出身の私でも、携わることがあるのかと不安でいっぱいだった。

「のぼりたい」の制作が始まると、少し図面を読めるようになり、いろいろ自分なりに制作に携われた。

3月の美山のホームステイでは、普段では体験できないことをさせて頂いたり、お話を聞かせて頂いたり、とても充実した2泊3日だった。最終日里親さんと離れるのが悲しかったが、お手紙で連絡を取れているのがとても嬉しい。良いリーフレットを完成させたいという欲がより一層増した。

次年度は、私たち新2回生が、主体で活動していくので、先生や先輩方の力をお借りしつつ、大野地区の方々とも今年度以上に関わられるような、そんな1年にしたい。

建築学科1回 野田千晶

私は入って間もないこともあり何をやって良いのかどんな意識で取り組めば良いのか、少し戸惑っていました。そんな中、この春休みに参加した美山での合宿で、実際に美山の雰囲気や空気を感じ、美山の魅力を発見することができました。

また、自分が実際に行ってみて好きになったようにこの素敵な美山に人が訪れるといいな、と考えるようになりました。そのためには一体自分に何ができるか、など考えるきっかけになりました。

これからも、この気持ちを忘れることなく意識を高く持って頑張っていきたいとおもいます。

建築学科1回 上尾奈菜

■ 2016年度の取り組み

制作活動：「わんぱく公園」

京都府立大学：くむくむ
(ヤタイ・ジャングルジム)

※東京・丸の内の、Open Muji 有楽町

「日本の木を使ったヤタイ」に参加。

摂南大学：のぼりたい

(ボルダリング)

建築系コンペ

作品の製作意図をより端的で具体性のある形にする機会として、建築系コンペへの応募をおこない、次の賞を受けた。

■ 木を活かす学生課題コンペティション

2015年度 ものづくり部門賞

2016年度 林野庁長官賞(最優秀賞)

木工工具講習会/製品講習会

講師：狩野 新(建築家・家具デザイナー)

木工工具の扱い方や、作品の製品化に向けて、レクチャーを受けた。

川下企業見学会/建築見学会

■ 建築見学会

日本橋の家：設計・安藤忠雄

住まい手であった金森秀治郎氏より、建物についてのレクチャーを受けた。

■ 川下企業見学会

株式会社内田洋行(本社)

株式会社パワープレイス(本社)

デザイナーの千代田氏より、案内いただきながらレクチャーを受けた。

シイノキ活用プロジェクト

京都・東山に繁茂する、シイノキを活用し製品化するプロジェクトに参加し、製品化を目指した作品の企画提案を行っている。

現地ホームステイ/合宿

美山町大野にて、ホームステイを実施し地域について詳しく知る機会を得た。

また、学生と地域住民が深く接する機会となった。

2016年度活動報告として

本年は、企画から制作・運営に至るまで、一連の活動を学生の力によって達成する事ができた。また、学生が、地域と深く接することで「地域への愛着」を益々深め、学びと共に、地域に愛される活動に対する喜びが深まりつつある事も喜ばしい。本年度は、活動助成や北山丸太を提供頂くなど、さまざまな経済的・物的支援に加え地域の方との連携がホームステイによって強化されるなど、たくさんの方に支えて頂きながら、活動内容が深化する一年となった。

関係頂いたみなさまに、深く御礼申し上げます。(美山木匠塾・塾長 羽原 康成)

みやまもくしょうじゅく 美山木匠塾



美山木匠塾のロゴマークが完成しました！
Designed by 仲田 早穂 in 2016

2016年度活動報告書

2017年3月31日発行

発行元

美山木匠塾 事務局

発行・編集

羽原 康成

〒596-0005

大阪府岸和田市春木旭町36-34

TEL 090-9887-0852

美山木匠塾・参加大学

京都府立大学

代表幹事

淡路谷 直季(3年生)

学生幹事

林 咲予子(2年生)

参加学生数

3年生5名、2年生6名、1年生7名

摂南大学

学生幹事

須山 慎也(2年生)

参加学生数

2年生8名、1年生6名

2016年度制作物設置地域

京都府南丹市美山町大野

ちびっこ広場

協賛

南丹市美山町 美山地域推進課

森下武肆商店

2016年度活動において次の助成を受けた。

公益信託 大成建設自然・歴史環境基金

セブン-イレブン記念財団 環境市民活動助成

◆ 撮影地：美山町・大野